

1. 調査報告概要表

作成日 2008年3月7日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3471504542
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	福山ケアセンターそよ風
所在地	広島県福山市松永町3丁目21-70 [〒] (電話) 084-930-4188
評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	〒739-1733 広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	12 人
利用定員数計	18 人
常勤	12人
非常勤	人
常勤換算	12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨
	3 階建ての 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	120,000 無	有りの場合償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり	1400 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低	58 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小川胃腸科産婦人科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福山ケアセンターそよ風は、全国に福祉事業を展開しているメデカジャパンが2年前に開設したグループホームである。管理者とそこで働く職員はより良い介護のあり方を目指して、今までの暮らしと変わらないような、家庭的雰囲気作りを力を入れている。入居者の身体的な具合の把握について家族と十分な話し合いを行い、その情報は全員で共有し、入居者の終末期への取り組みは熱心である。地域ボランティアの協力も多めで、大学生の福祉活動、中学生、小学生、幼稚園児の訪問は入居者の楽しみである。記念日には地域の方へ案内し参加者も多く交流をされている。これらも地域資源に支えられ、職員の熱意は更に質の高いケアを提供される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の認知の進行を緩和し入居者の一人ひとりの対応を大切にされている。月に一回、全体会議で各委員会(サービス向上、プラン立て、事故対策)で話し合いをされ、全職員で模索しながらそよ風を目指す介護に取り組まれていることが、うかがえました。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	地域に密着しながら、そよ風が成長されるよう職員全員で取り組まれ、職員は働きやすい場であり、明るい気持ちで支援されている、この向上心に期待します
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議はホームの行事日にかかれて、家族の方になるべく参加していただけるよう働きかけられている。家族、民生委員、地区長、包括支援センター職員の出席があり意見を交換されている。今後幅広い立場の人の意見を聞きサービスの向上になるよう期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が来られて気軽に意見が言えるよう職員は雰囲気作りをして、できるだけ家族に訪問してもらえるようホームの行事や運営推進会議の案内をされている。玄関に苦情箱が置かれ意見を聞くことができる。その都度全員で討議され改善に努められている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは3階にあり、近所の方が気軽に立ち寄ってもらえるとは言えないが、できるだけ多くの人と交流するよう地域のボランティアの方の訪問を受け入れられている。多くの方の協力があり地域に根ざしたホームになるよう努められている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で入居者が、自ら生活の場であると実感され、一人ひとりの心身の状況に合わせてケアされるよう、安心した生活を送る支援がされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	福山ケアセンター全員(厨房、デイサービス、ショートステイ、居宅介護、グループホームの夜勤、日勤)でミーティングがありその時グループ憲章を一行づつ読み上げられている。朝礼でも唱和されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(お祭りの神輿、お正月の獅子舞)では地域の方が訪れられる。記念日には地域の方を招待し180人の方が来られたり、中学生のブラスバンド部の演奏もあり交流がされている。小学生の体験学習、幼稚園の訪問、大学生の福祉活動、地域のボランティアの訪問など色々な楽しみを受けられている。		施設からも地域貢献活動へ参加したいと思っておられるので、地域の一員として働きかけをされることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は職員全員ミーティングで話し合い改善に努められている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議は敬老の日に行われ、できるだけ多くの方に参加してもらえるよう配慮されている。次はひな祭りの日に開かれる参加者(家族、民生委員、区長、老人会、包括支援センター職員)に案内し終末期のあり方について話し合いをされる。		

福山ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	松永保険課と連絡をとられ、分からない事などすべて相談し、意見を聞かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族にはそよ風便りを送り、入居者の日々を知らされている。入居者に変化があった時、状況によっては電話で連絡されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を置き、意見を聞き、家族は来られる方が多く面会の時に相談されている。電話での苦情を聞かれることもある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、入居者に馴染みになるよう2ユニットに職員が往来されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は月に1～2回は参加するように勤務を組まれて月に1回の委員会に報告されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福山タウンソーシャルワーク連絡会に参加し同業者との交流の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と話し合い、日々の状態に合わせ、その方のペースで安心して過ごせる配慮がうかがえる</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と職員は共に過ごし、支えあう気持ちで、出来る事を一緒にされる場面作りに努められている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者と日々のかかわりの中で把握に努め、職員全員で話し合い、介護に活かされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者、家族と話し合い職員、ケアマネとのミーティングや担当者会議で入居者により良い介護計画が作られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状況に合わせ、変化があれば見直しがされる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ケアセンターそよ風はデイサービス、ショートステイの事業所が一階、二階にあり看護師の連携体制ができ、支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの内科医が提携医で、ほとんどの方が受けられて、往診もされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については家族と十分話し合い、思いや要望を聞き、去年は看取りをされた。デイケア、デイサービスの看護職員とも施設全体としての協力があり、最後まで看取るケアに職員全員が取り込まれる姿勢がうかがえる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルは鍵のかかった場所に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせたペースで安定した生活の支援がされている。(車椅子で食器の片付け) その方に出る事を手伝っておられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	透析の方には腎臓食が作られ、刻み食、ミキサー食と入居者に合わせた食事作りがされている。味付けにも工夫されている。行事の際、行事食を提供され、入居者は楽しみにしておられる		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に添うようにされ、毎日入られる方、夜に入られる方もあり、その方に合わせた支援がされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から生活歴を聞き、その人に合った楽しみや、役割を活かせるよう支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所へ散歩をされたり、買い物希望されると出かけられている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけられていないので見守りがされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署が近隣にあり、火災訓練や救命講習を全職員が一年かけて受けられた		

福山ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>本部の管理栄養士により献立が作られている。食事は食費に合った食事づくりがされて、手作りケーキや行事食が作られ、そよ風の食事コンテストもあり工夫がされている。一人ひとりの水分量も記録されている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を感じる居間は広く、炬燵、ソファなどが置かれ、入居者は居心地よさそうにほとんどの方が居間で過ごされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はどの部屋も明るく見晴らしがよく、家庭から持ち込まれた家具や物品が置かれている。</p>		